

佐久穂町人口ビジョン

平成28年3月

佐久穂町

目次

第1章 はじめに	1
1. 佐久穂町人口ビジョンの位置付け	1
2. 佐久穂町人口ビジョンの対象期間	1
第2章 人口の現状分析と将来人口の推計・分析	2
1. 人口の現状分析	2
2. 将来人口の推計・分析	17
3. 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察	18
4. 小括	20
第3章 人口の将来展望	21
1. 目指すべき将来の方向	21
2. 人口の将来展望	22
資料	26
1. 佐久穂町人口ビジョン・佐久穂町コミュニティ創生戦略策定のために独自に行った調査の概要	26

第1章 はじめに

1. 佐久穂町人口ビジョンの位置付け

平成26年12月27日、政府は、日本の人口の現状と将来の姿を示し、これから目指すべき将来の方向を示す「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を公表しました。

まち・ひと・しごと創生長期ビジョンには、我が国の人口減少について次のように示しています。

日本は「人口減少時代」に突入している。

人口減少は、「静かなる危機」と呼ばれるように、日々の生活においては実感しづらい。

しかし、このまま続けば、人口は急速に減少し、その結果、将来的には経済規模の縮小や生活水準の低下を招き、究極的には国としての持続性すら危うくなるのである。

「どうにかなるのではないか」というのは、根拠なき楽観論であると言わざるを得ない。

この危機的な状況を眼前にして、我々はただ立ちすくんでいるわけにはいかない。

厳しい現実を正面から受け止め、断固たる姿勢で立ち向かわなければならない。そのためには、まず国民に対して人口の現状と将来の姿について正確な情報を提供し、認識の共有を目指していくことが出発点となる。

政府版まち・ひと・しごと創生長期ビジョン「I. 人口問題に対する基本認識」から一部抜粋

日本創成会議によれば、町の20～39歳女性人口は2010～2040年の間に52.5%減少すると推計され、「消滅可能性都市」の1つとなっています。この現実を受け止め、将来にわたって持続する町にしていくために、今、先手を打つことが重要です。人口減少予測に対して抵抗することは大変に困難ではありますが、その中でも「佐久穂の創生」に向けて町民と行政が同じ課題を共有し、解決に向けて努力する必要があります。

佐久穂町人口ビジョンは、町が人口減少に歯止めをかけ、町民が幸せな暮らしを営んでいくため、町の現状を正確に把握し、将来の姿を展望するとともに、町民とともに将来を考えることで、真に活力ある地域を創造することを目的として策定するものです。

2. 佐久穂町人口ビジョンの対象期間

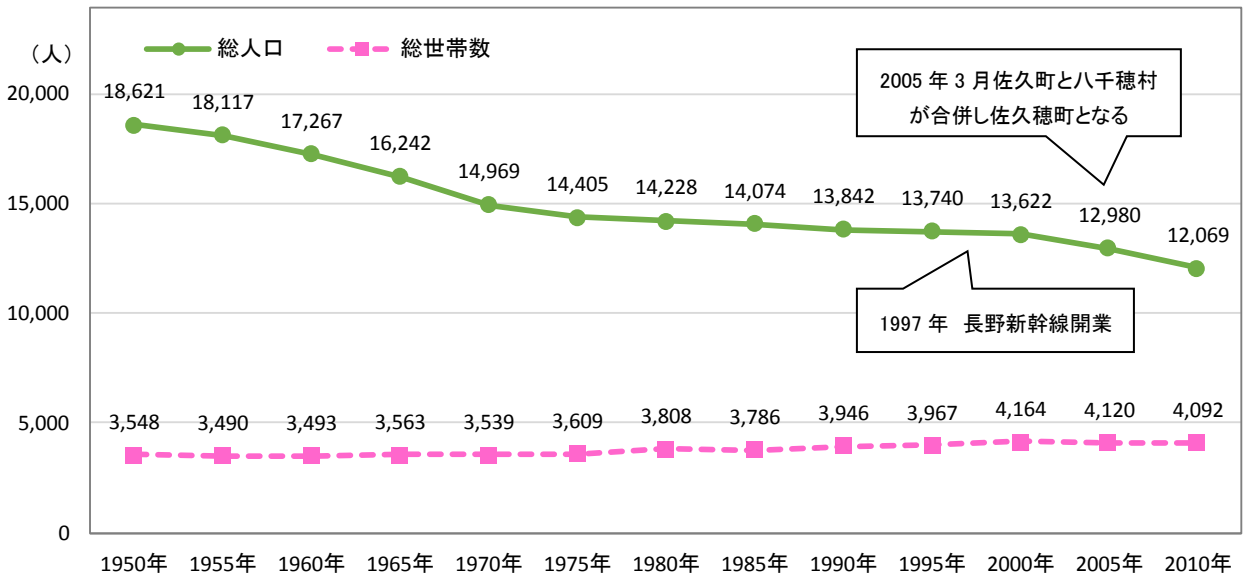
次世代の佐久穂町を見据えるため、30年後の2045（平成57）年までの人口推移等を推測します。

第2章 人口の現状分析と将来人口の推計・分析

1. 人口の現状分析

(1) 人口構造

(ア) 総人口および総世帯数の推移

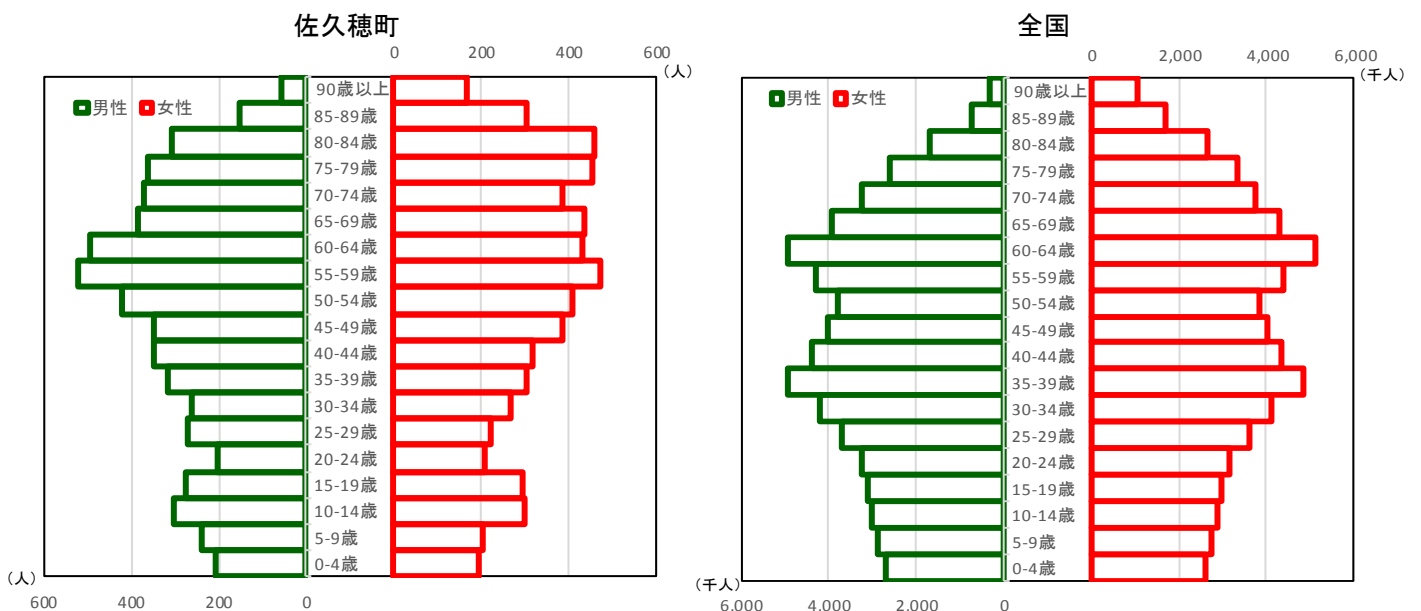


出典：2010年まで国勢調査

※2005年までは佐久町、八千穂村の合算値

町の総人口は、過去65年間減少し続けています。総世帯数は、2000年をピークに減少傾向に転じています。

(イ) 人口ピラミッド (2010年)

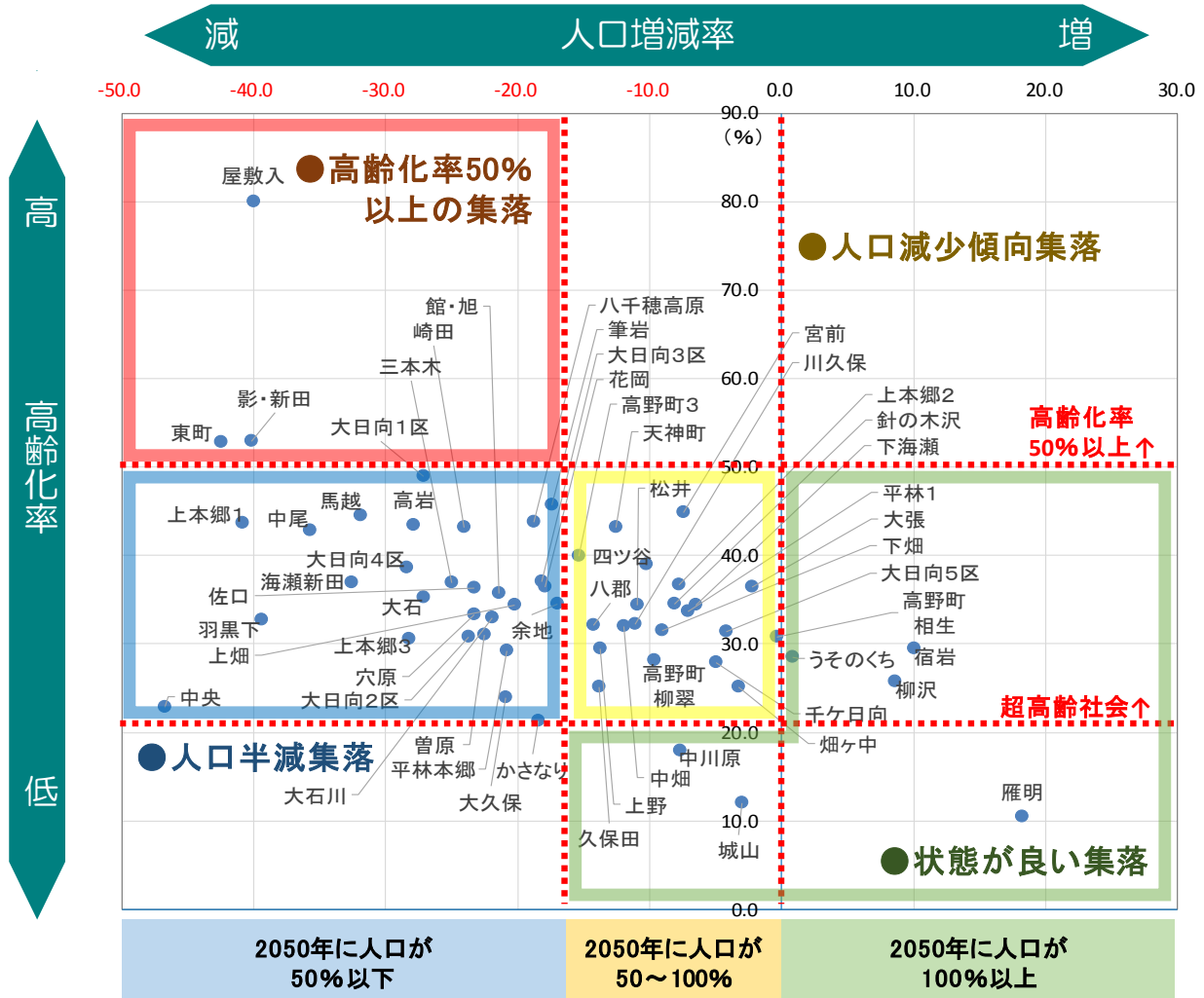


出典：国勢調査

町の人口は全国のデータと比較すると、特に20～30歳代の人口が流出していることがわかります。また、40～44歳の団塊ジュニアの世代も少なくなっています。産業や子育ての担い手の割合が少なくなっていることがわかります。

(ウ) 地区の状況

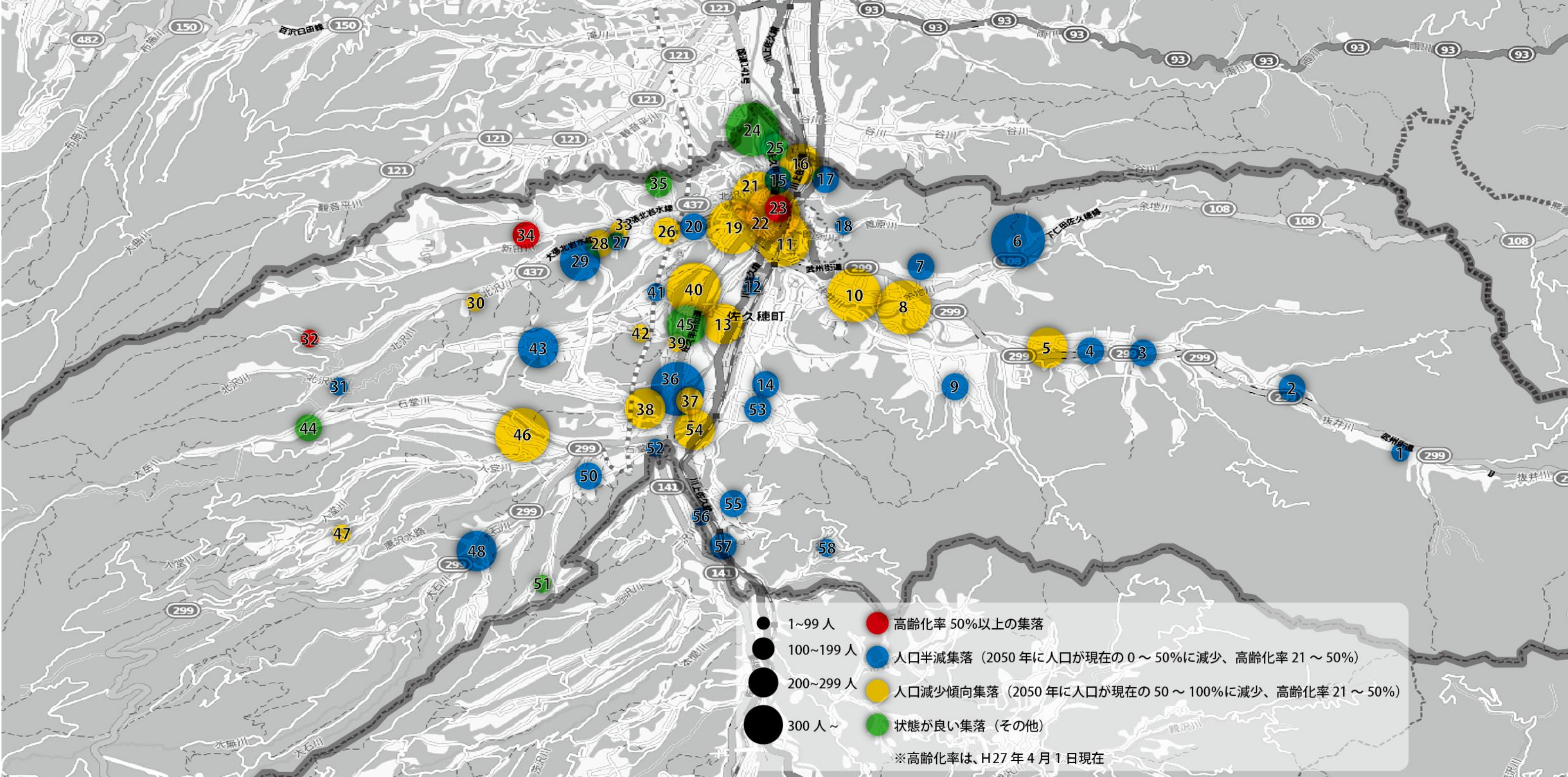
2015年4月1日の人口に対する、10年前からの人口変化の割合を人口増減率として横軸に、2015年4月1日現在の高齢化率を縦軸に、58の地区を並べます。



出典:住民基本台帳(H27.4.1現在)

約半数の地区で、2050年までに人口が半減するペースで人口減少が進んでいます。一方で、人口の減らない「状態が良い集落」もあります。

高齢化率50%以上の集落	人口半減集落	人口減少傾向集落	状態が良い集落	
東町 影・新田 屋敷入	大日向1区 大日向2区 大日向3区 大日向4区 余地 かさなり 館・旭 海瀬新田 花岡 羽黒下 平林本郷 曾原 三本木 上本郷1	上本郷3 中尾 上畑 大久保 佐口 大石 八千穂高原 馬越 大石川 崎田 穴原 中央 高岩 筆岩	大日向5区 上本郷2 大張 畑ヶ中 宮前 千ヶ日向 中畑 下畑 上野 八郡 松井 天神町	雁明 宿岩 中川原 うそのくち 城山 柳沢



● 1~99人 ● 高齢化率 50%以上の集落
 ● 100~199人 ● 人口半減集落 (2050年に人口が現在の0~50%に減少、高齢化率 21~50%)
 ● 200~299人 ● 人口減少傾向集落 (2050年に人口が現在の50~100%に減少、高齢化率 21~50%)
 ● 300人~ ● 状態が良い集落 (その他)
 ※高齢化率は、H27年4月1日現在

No	地区名	人口
1	大日向1区	92
2	大日向2区	156
3	大日向3区	143
4	大日向4区	109
5	大日向5区	236
6	余地	389
7	かさなり	141
8	川久保	531
9	館・旭	182
10	畑ヶ中	897

No	地区名	人口
11	四ツ谷	400
12	海瀬新田	92
13	下海瀬	291
14	花岡	184
15	羽黒下	193
16	平林1	211
17	平林本郷	144
18	曾原	71
19	高野町柳翠	508
20	三本木	160

No	地区名	人口
21	高野町相生	494
22	高野町3	371
23	東町	127
24	宿岩	360
25	中川原	117
26	久保田	195
27	上本郷1	71
28	上本郷2	90
29	上本郷3	216
30	大張	44

No	地区名	人口
31	中尾	14
32	屋敷入	5
33	針の木沢	148
34	影・新田	102
35	雁明	143
36	上畑	854
37	宮前	107
38	千ヶ日向	280
39	中畑	75
40	下畑	308

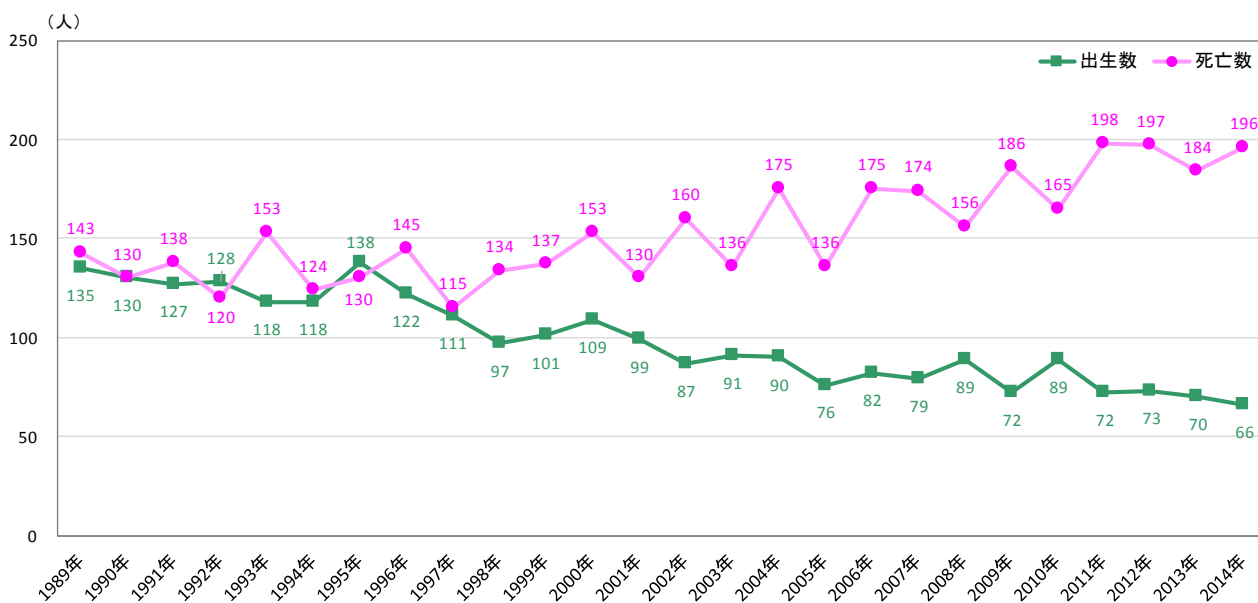
No	地区名	人口
41	大久保	67
42	上野	51
43	佐口	270
44	うそのくち	123
45	城山	299
46	八郡	309
47	松井	64
48	大石	210
49	八千穂高原	16
50	馬越	119

No	地区名	人口
51	柳沢	35
52	大石川	73
53	崎田	162
54	天神町	271
55	穴原	159
56	中央	92
57	高岩	122
58	筆岩	46

住民基本台帳 (H27.4.1現在)

(2) 人口動態

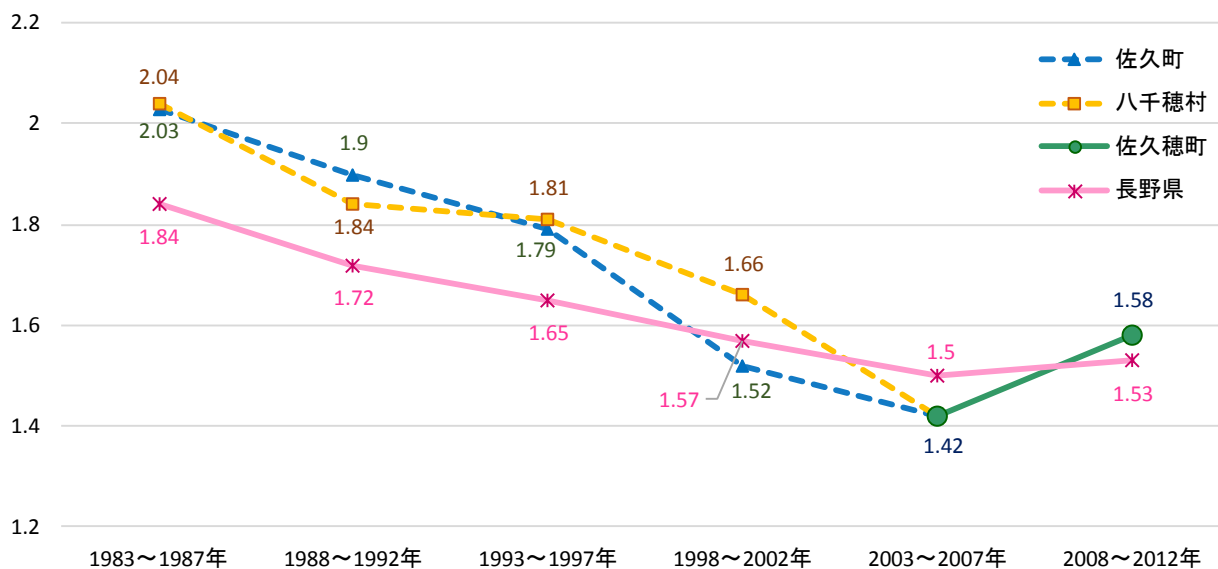
(ア) 自然動態の推移



出典：長野県毎月人口異動調査 市町村別異動状況
 ※2005年までは佐久町、八千穂村の合算

町の自然動態を見ると、1996年以降、死亡数が出生数を上回り、その差が拡大する傾向にあります。1989年と2014年を比較すると、25年の間に、出生数は半減、死亡数は約4割増となっています。

(イ) 合計特殊出生率の推移



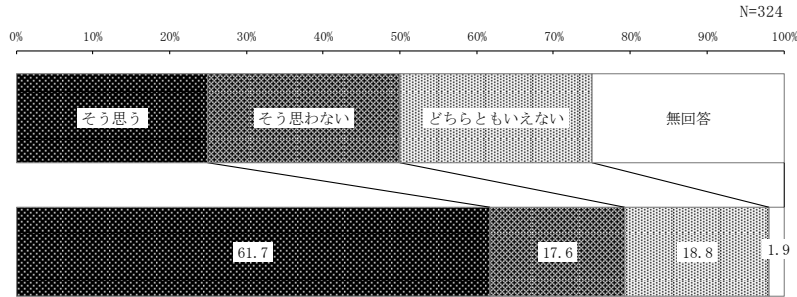
出典：厚生労働省 人口動態保健所・市区町村別統計(人口動態統計特殊報告)

町の合計特殊出生率¹は、おおむね長野県を上回る値で推移しています。1983～1987年から減少傾向にありましたが、2008～2012年は上昇に転じています。

¹ 合計特殊出生率
 1 人の女性が生涯に何人の子どもを産むかを表す値。各年齢(15～49歳)の女性の出生率を合計したもの。女性人口の年齢構成の違いを除いた値であり、年次比較、国際比較、地域比較に用いられている。

(ウ) 希望出生数と実際の乖離 かいり

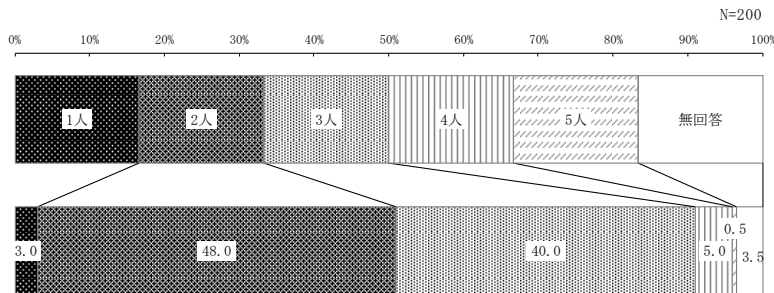
■子どもの希望有無



出典：佐久穂町 町内在住者対象アンケート調査(2015年)

将来、子どもが欲しいかについて聞いたところ、「そう思う」(61.7%)が最も高く、次いで「どちらともいえない」(18.8%)の順となりました。

■理想の子どもの人数

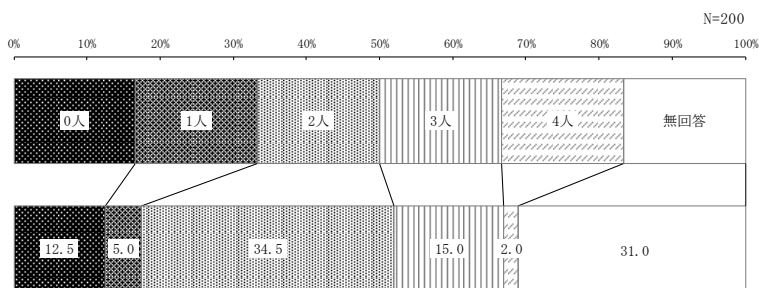


平均 2.50 人

出典：佐久穂町 町内在住者対象アンケート調査(2015年)

理想の子どもの人数について、子どもの希望有無で「そう思う」と回答した方200人に聞いたところ、理想の子どもの平均人数は2.50人となりました。

■予定している子どもの人数



平均 1.84 人

出典：佐久穂町 町内在住者対象アンケート調査(2015年)

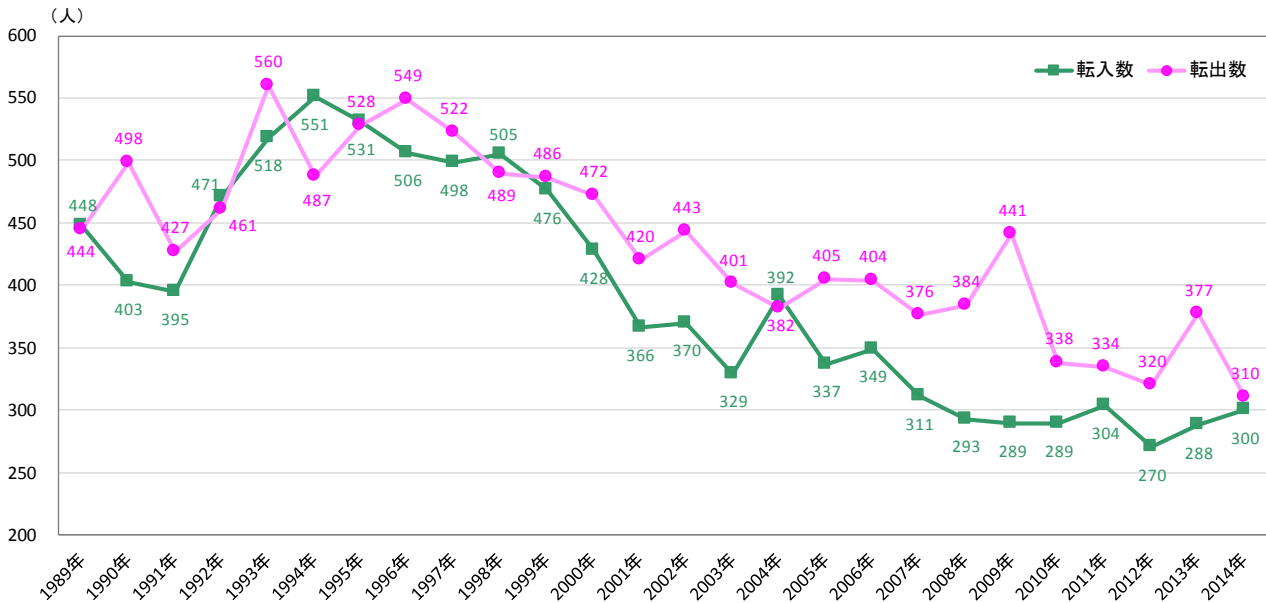
予定している子どもの人数について、子どもの希望有無で「そう思う」と回答した方200人に聞いたところ、予定している子どもの平均人数は1.84人となりました。

■理想の子どもと実際の人数との乖離^{かいり}の要因と考えられるもの

主な要因	内容
出産の負担	・安心してお産できる病院が町内にないことによる不便さ ・晩婚化により初産年齢が高くなっていて、体力的に産めなくなっている
経済的負担	・小学校以降の子どもの教育費が大きな負担
預け先の不足	・子どもの病気の際などの預け先や最寄りの保育園などの預け先が十分には確保されていないこと

出典：佐久穂町 町内在住若者対象アンケート調査(2015年)

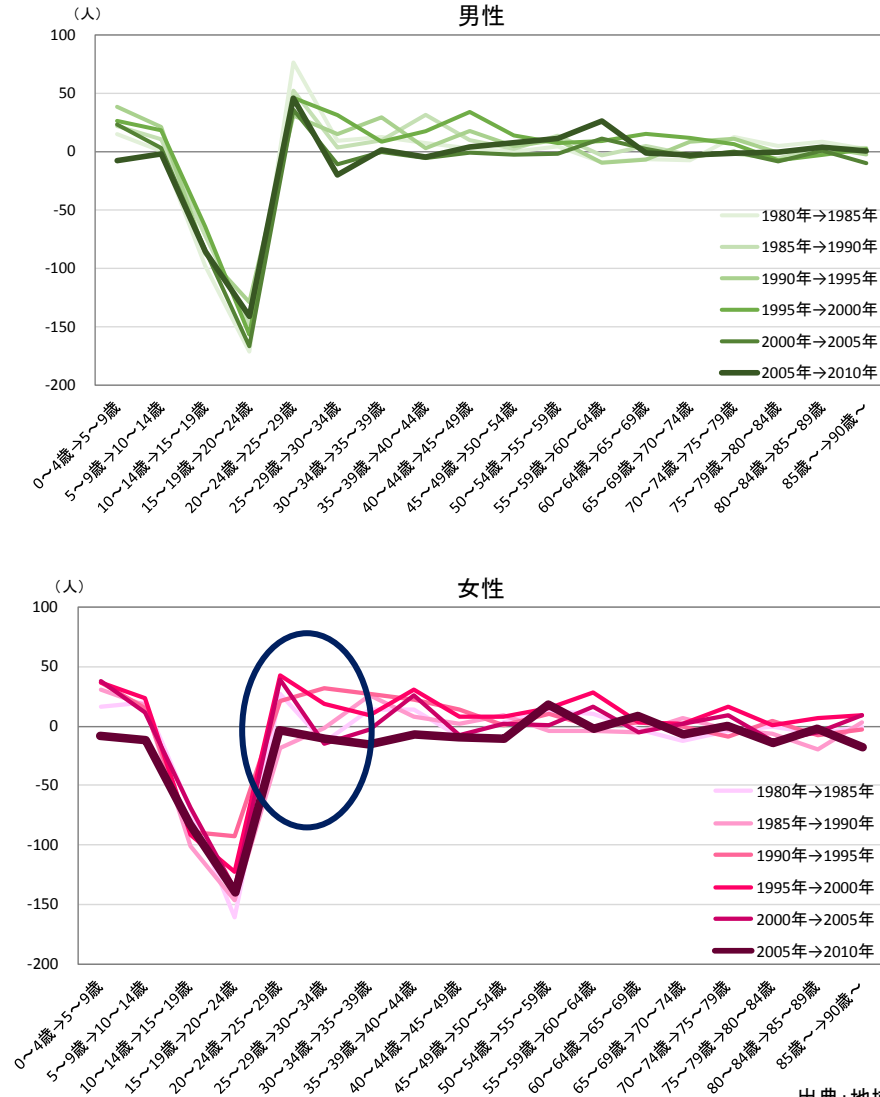
(エ) 社会動態の推移



出典：長野県毎月人口異動調査 市町村別異動状況
※2005年までは佐久町、八千穂村の合算値

町の社会動態を見ると、1999年以降、転出数が転入数をほぼ上回っています。1989年と2014年を比較すると、25年の間に、転出数と転入数ともに約3割減となっています。

(オ) 男女別年齢階級別の社会動態の推移



出典：地域経済分析システム RESAS

過去 30 年の傾向として、進学等で 10 代後半から 20 代前半にかけて転出者が大きく増加し、20 代後半で転入者が増加する傾向がありました。

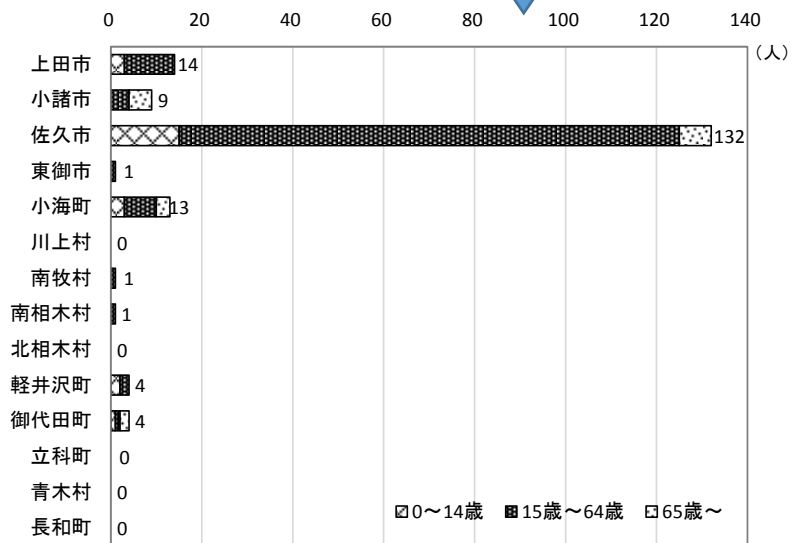
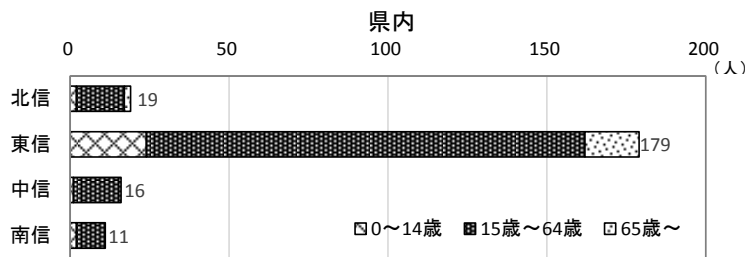
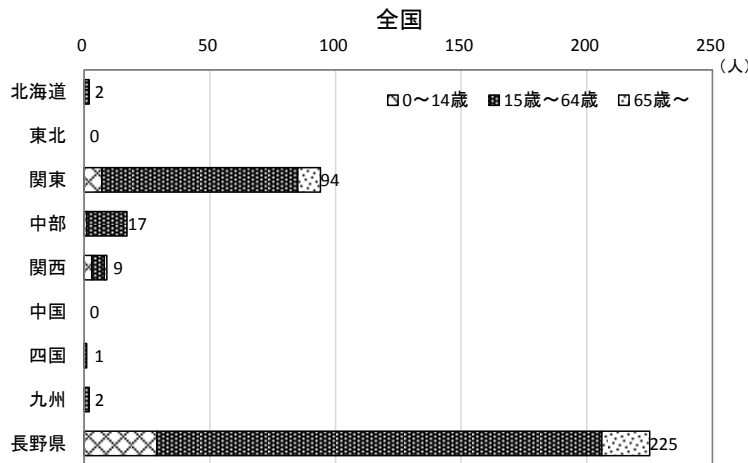
しかし、2005 年～2010 年の女性を見ると、15～24 歳の転出の傾向は変わらない一方で、若年女性（20～30 代）の転入が大幅に減少しており「**若年女性が戻らないまち**」となっていることがわかります。

■町外へ出た女性が戻ってこない要因と考えられるもの

主な要因	内容
仕事	・働く場が町内に不足しており、進学や就職などで出て行くとそのままその先で結婚、出産 ・就職が町内でないと、その後なかなか戻る機会がない
住宅	・若い女性や結婚後の家族が住みたいと思うような賃貸物件がない ・町内の宅地、分譲住宅、空き家等の情報を聞かない ⇒地元民は外へ出てしまい、外部からも佐久穂を選ぶ要素が少ない
生活	・町内には大型商業施設がなく不便 ・山間地は不便、都会のほうが暮らしやすい ・家にいると親や近所の人から色々と言われ、わずらわしく感じる ・コミュニティが狭く、うわさになるため町内の男性とは付き合いづらく、町の外の男性を求める傾向があり、町外で結婚する

出典：佐久穂町 町内在住若者対象アンケート調査(2015 年)

(カ) 転出者の転出先

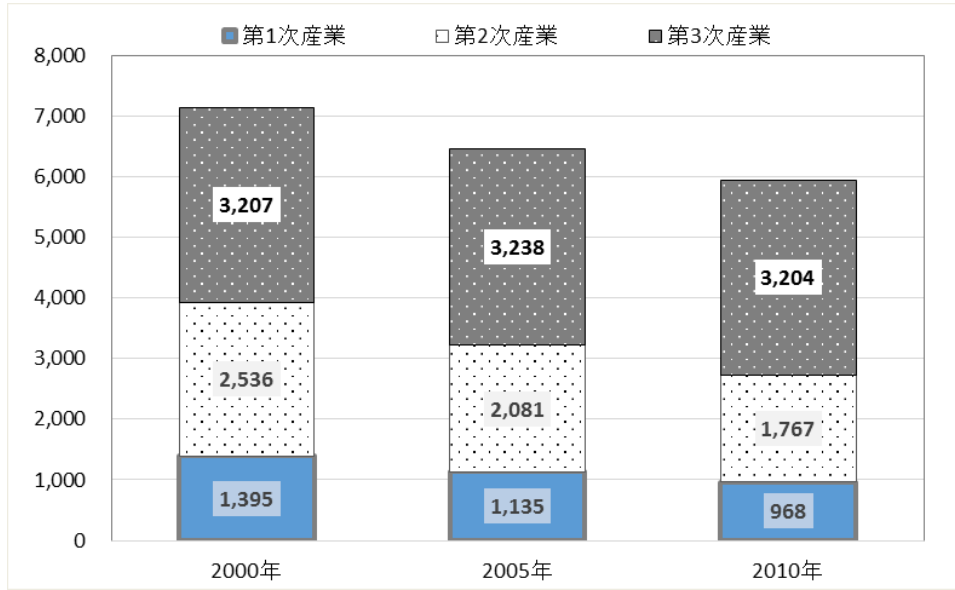


出典：地域経済分析システム RESAS

佐久穂町からの転出者は主に県内に転出しており、県外では関東に多く転出しています。県内では東信地域での転出が多く、特に佐久市へ転出しています。

(3) 地域経済分析

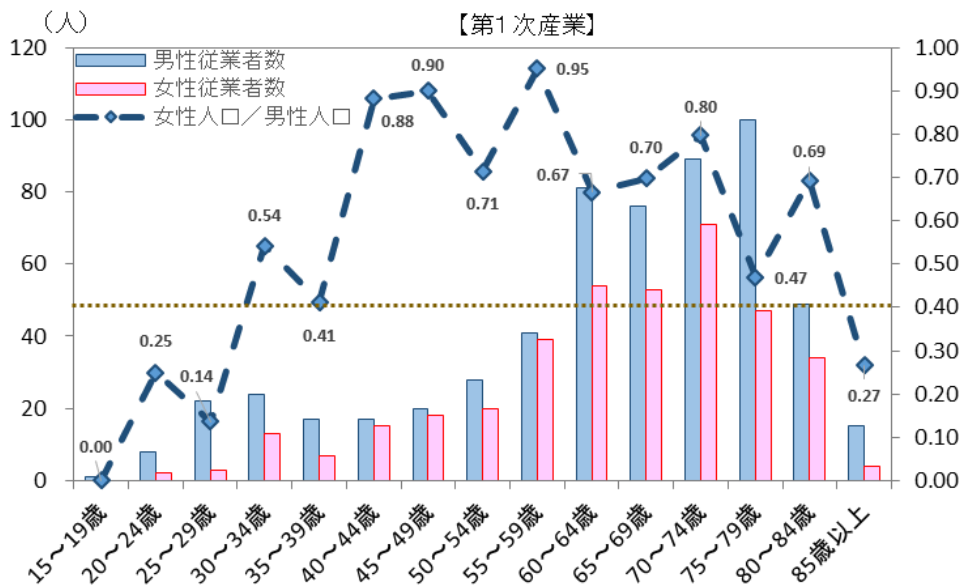
(ア) 産業別就業人口の推移



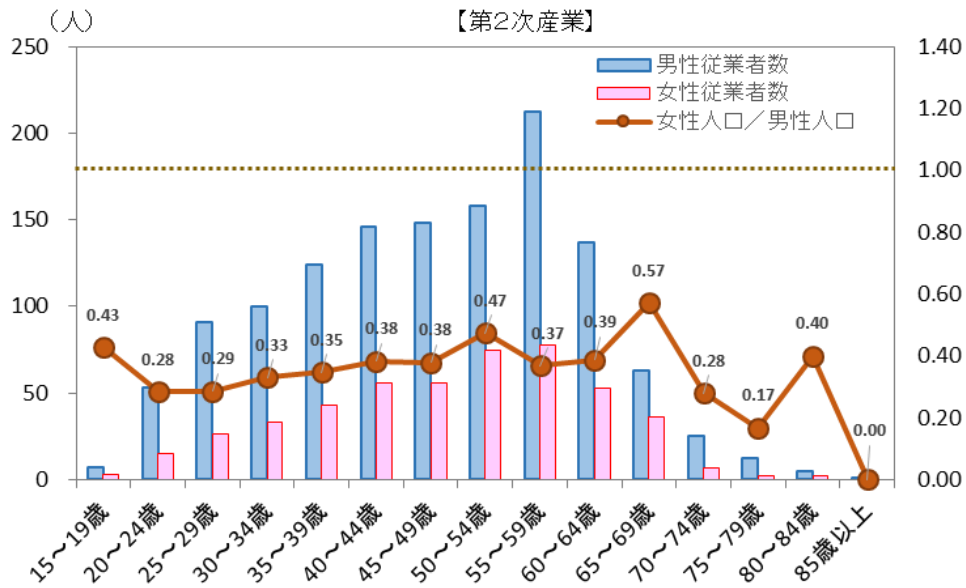
出典: 国勢調査

町の就業人口は、2000年から減少傾向にあります。2000年と2010年を比較すると第3次産業は横ばいであるものの、第2次産業と第1次産業は約3割減と大幅に数を減らしています。

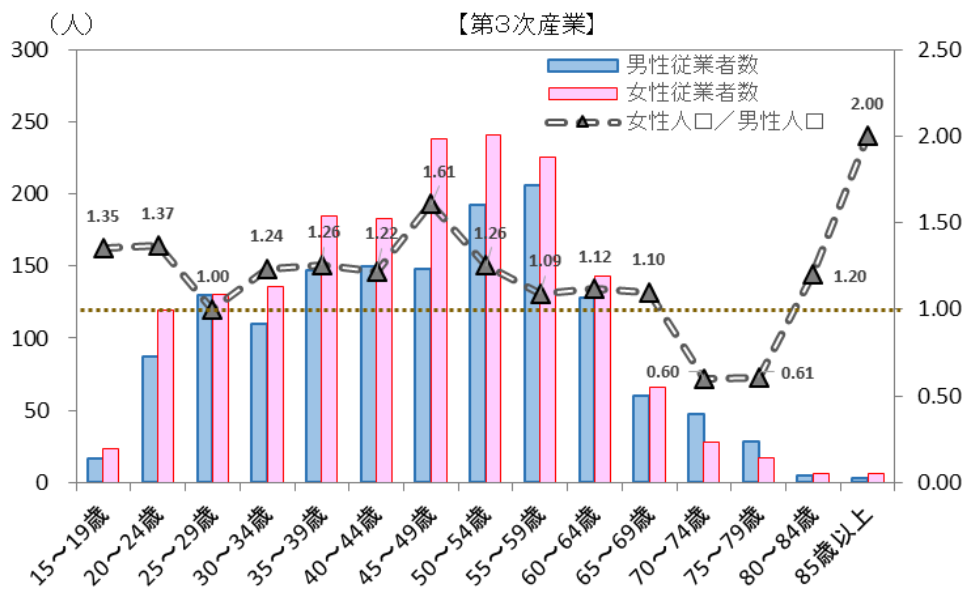
(イ) 各産業の状況



出典: 国勢調査(2010年)



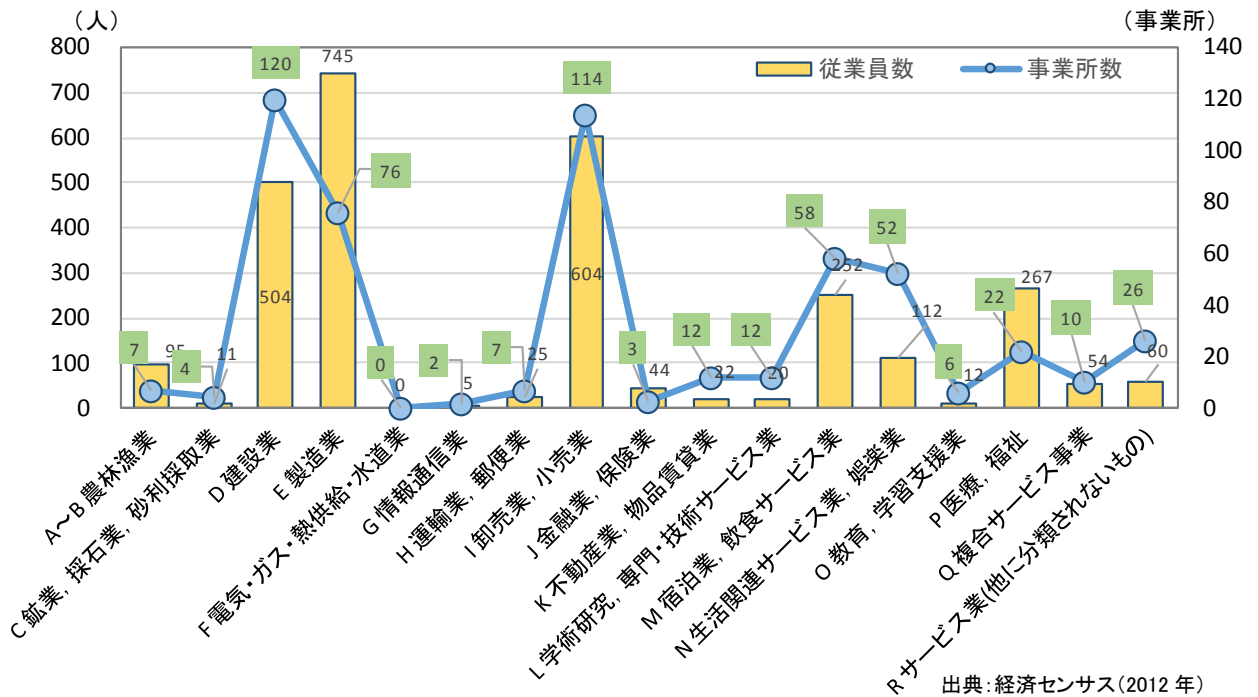
出典:国勢調査(2010年)



出典:国勢調査(2010年)

町の各産業の状況を見ると、第1次産業は、高齢化が進んでいる一方で、20～30代男性の従業者もいることがわかります。第2次産業は、生産年齢の雇用を吸収しているものの、男性中高年層の割合が多くなっています。第3次産業は男女ともに従業者が多く、他の産業分野と比べて若い世代と女性の雇用の受け皿となっていることがわかります。

(ウ) 事業所数と従業員数



町の産業をより詳細に見ていくと、小規模な事業所が多いことがわかります。事業所数では「建設業」、「卸売・小売業」、「製造業」が多くなっています。従業員数では「製造業」、「卸売・小売業」、「建設業」が多くなっており、これらの産業が町内に雇用を生み出していると考えられます。

(エ) 知名度

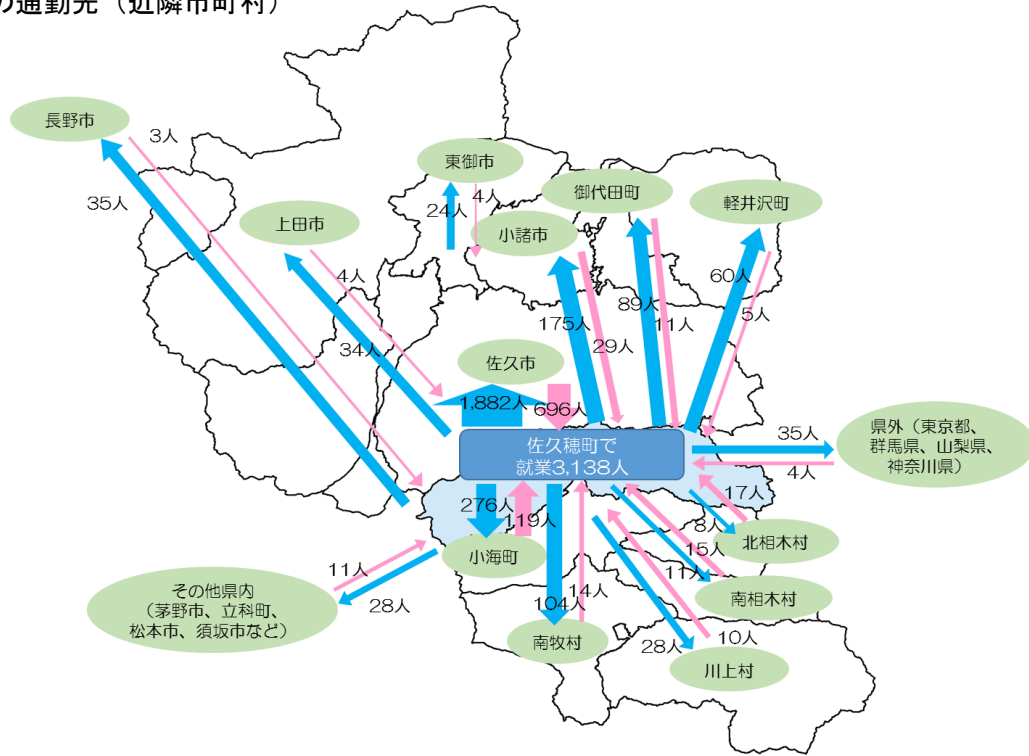
2015年順位	市町村名
32位	軽井沢町
351位	小諸市
419位	上田市
431位	佐久市
980位	佐久穂町

出典：地域ブランド調査 2015 認知度ランキング 市町村の結果
(全国 1,000 市区町村対象調査)

地域ブランド調査 2015 認知度ランキング市町村の結果によると、佐久穂町は、東信エリアの中でも知名度が低いことがわかります。

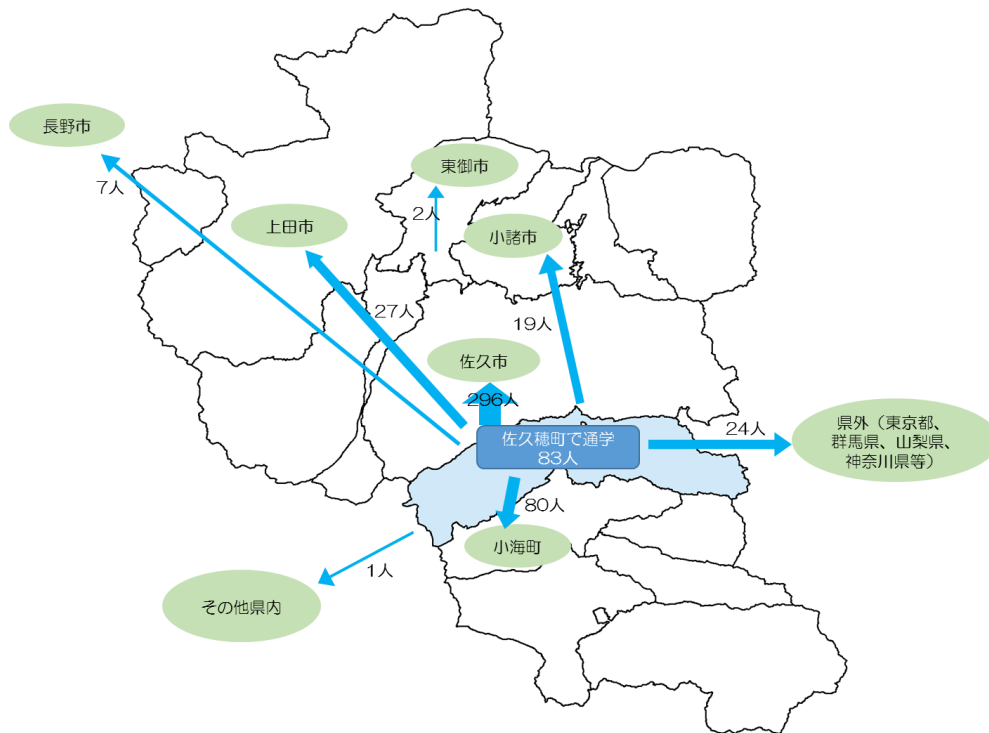
(才) 町民の通勤・通学先（近隣市町村）

■従業員の通勤先（近隣市町村）



出典：国勢調査（2010年）

■学生の通学先（近隣市町村）

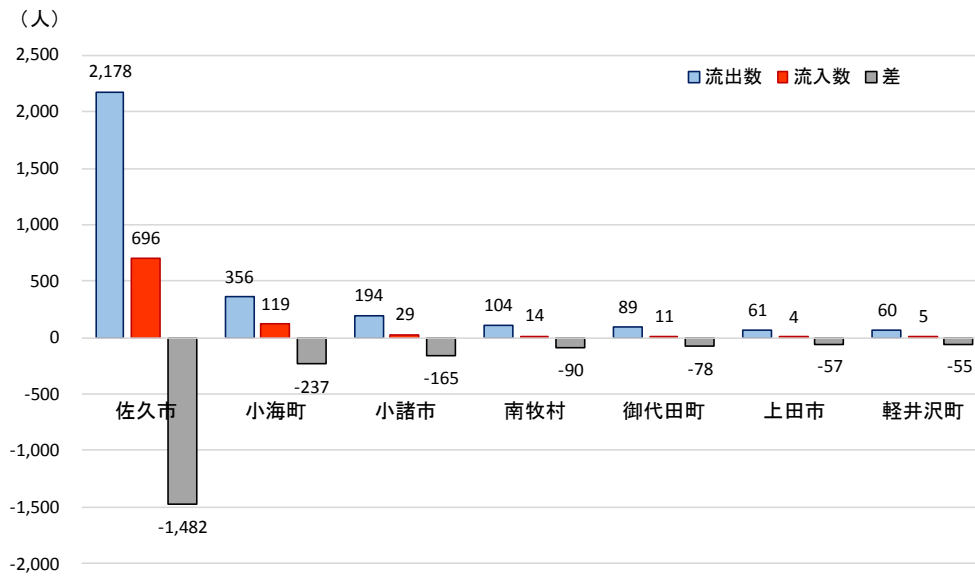


出典：国勢調査（2010年）

町民の通勤・通学先を見ると、佐久市へ働きに行く人が突出して多くなっています。

通勤・通学を合わせて見ると、多くの周辺自治体との間で、流入数よりも流出数が多くなっています。

■昼夜間人口の差



出典:国勢調査(2010年)

昼夜間人口の差の内訳を見ると、佐久市との流出入差が1,482人と最も大きく、次いで小海町、小諸市、南牧村の順となっています。

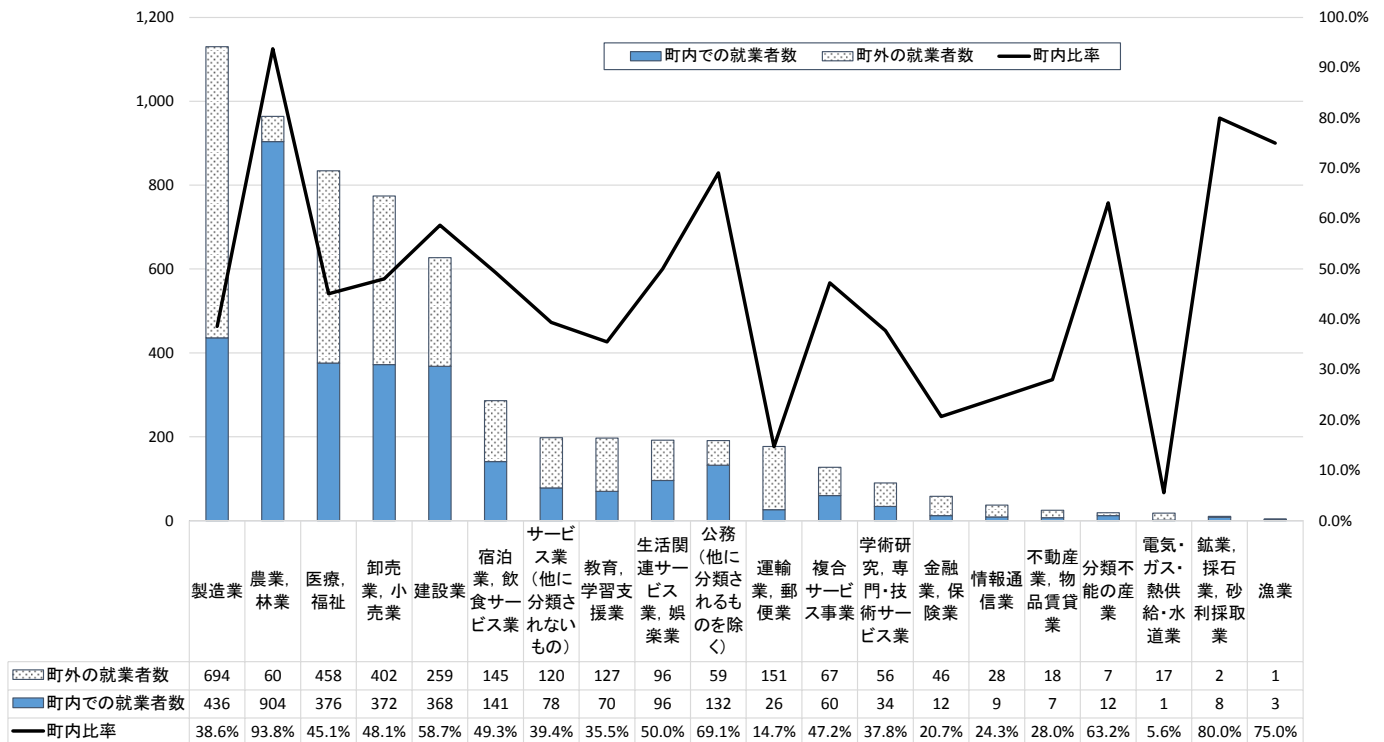
	常住人口 (人)	昼間人口 (人)	昼夜間 人口比率 (%)
佐久穂町	12,069	9,765	80.9
小海町	5,180	5,352	103.3
佐久市	100,552	100,582	100.0

出典:国勢調査(2010年)

昼夜間人口比率は80.9%で、周辺の市町と比較すると低い水準にあります。

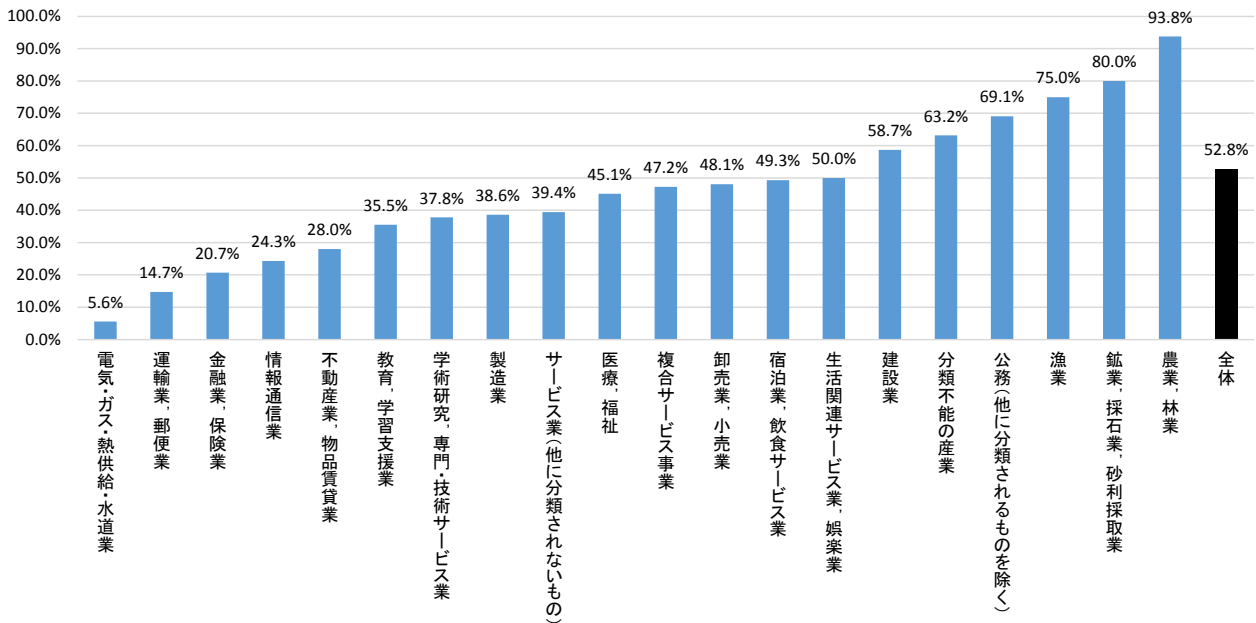
(カ) 町内の就業の状況

町民の就業の状況



出典：国勢調査（2010年）

町民の就業の町内比率



出典：国勢調査（2010年）

町内の就業の状況を見ると、佐久穂町内での就業は約5割に留まっています。町内で最も従業者数が多い産業分野は「製造業」ですが、町内で働いている人口が最も多いのは「農業・林業」であり、次いで「製造業」「医療・福祉」「卸売業・小売業」「建設業」となっています。

(キ) しごとの創出に向けて

町の産業を担っている団体（佐久穂町商工会、JA佐久浅間、南佐久北部森林組合）に産業振興の方向性を伺いました。

■第1次産業

〈農業〉

果樹、花卉、野菜、米と生産品目が多様なことが、佐久穂町の特徴です。1つ1つの産品を見ていくと、生産規模は小さいものの強い商品力を有するものもあります。農産物は町外との接点でもあるため、町全体のブランド力を高めていくことを仕掛けていくチャンネルになり得ます。農産物が売れることで町のブランド力が上がるという循環をつくっていくことが重要です。

農業従事者の高齢化のため、世代交代が課題となっています。新規就農のニーズはあるため、やる気のある農業者を育て、生産効率の高い農地を継承し、定住してもらうためのプロセスづくりが必要です。

〈林業〉

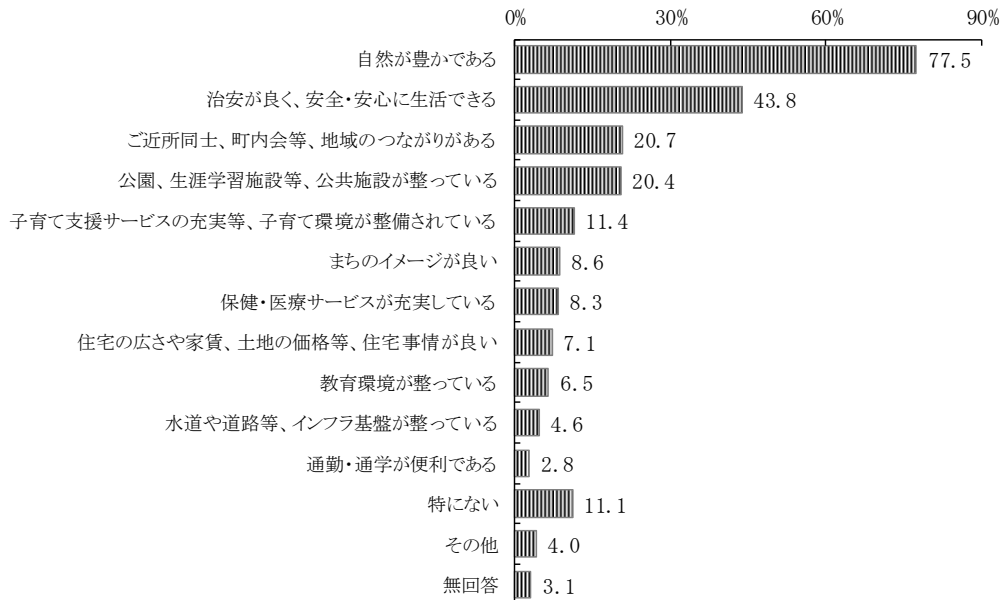
佐久地域の人口林にはカラマツが多くなっています。現在、住宅産業の変化、土木分野での利用の減少により木材利用のニーズが減っているものの、山には材材として使える木が育っているため、木材利用のニーズを開拓できれば産業として拡大する可能性は残されています。そのためには、広域的な連携を含みながら、カラマツ活用のバリューチェーン²を再構築していく必要があります。

■第2次産業、第3次産業

小規模事業者に対しては、企画力・経営力を高めるための支援、事業継承の支援が必要です。

出典:佐久穂町 ヒアリング調査(2015年)

(4) 佐久穂町の強み



出典:佐久穂町 町内在住若者対象アンケート調査(2015年)

佐久穂町の強みは、「自然が豊かである」(77.5%)が最も多く、次いで「治安が良く、安全・安心に生活できる」、「ご近所同士、町内会等、地域のつながりがある」、「公園、生涯学習施設等、公共施設が整っている」が続きます。

² バリューチェーン

原材料の調達から製品・サービスが顧客に届くまでを、一連の価値(バリュー)の連鎖(チェーン)として一体的にとらえる考え方。

2. 将来人口の推計・分析

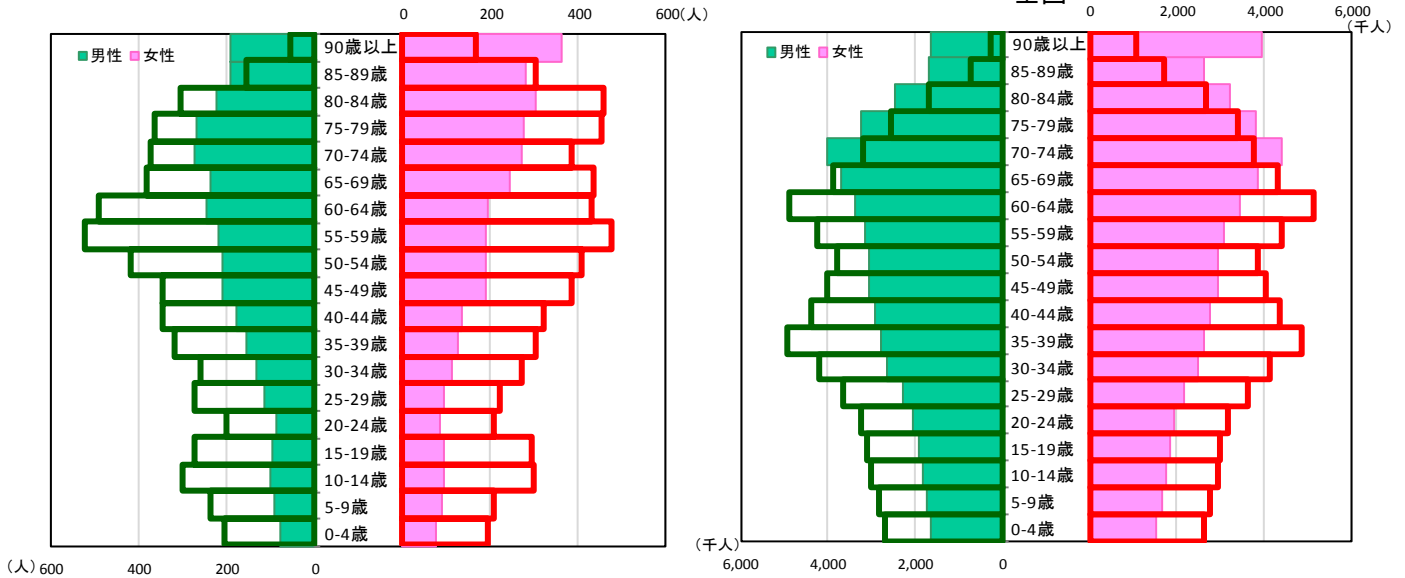
(1) 仮定値に基づく将来人口の推計と分析

(ア) 人口ピラミッド



佐久穂町（社人研推計に準拠）

全国



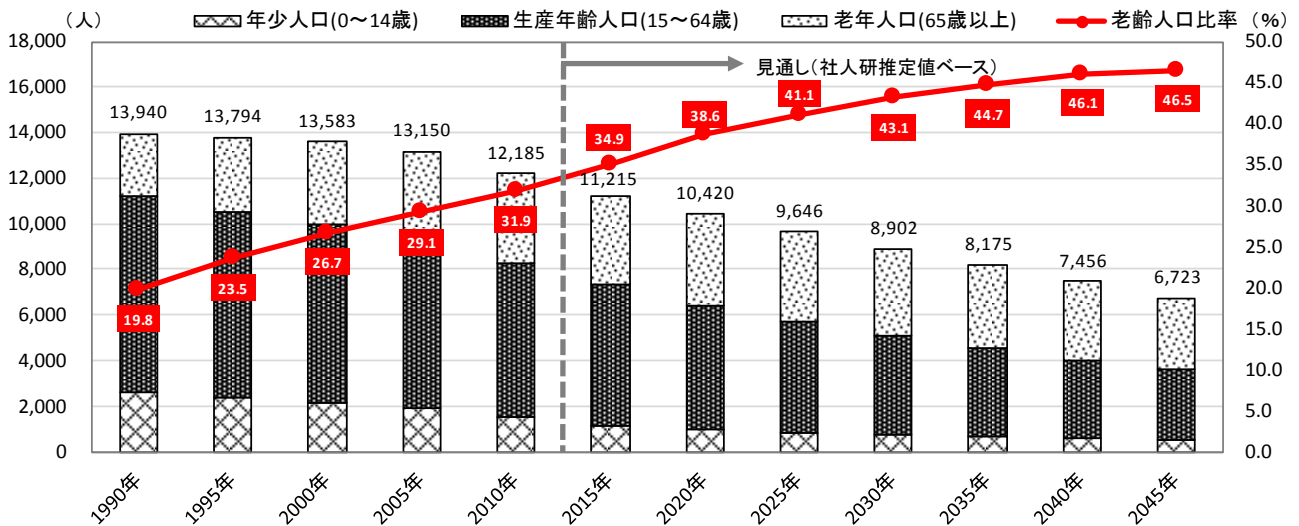
出典：2010年：国勢調査(2010年)

2045年：国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』2013年3月をベースに再計算

現在、町の人口構造は逆三角形であり、社人研推計では全国と比べて、若い世代が速いスピードで減っていく様子がわかります。

(イ) 総人口・年齢3区分別人口構成の推移

社人研推計に準拠



出典：2010年まで長野県毎月人口異動調査(各年4月1日)

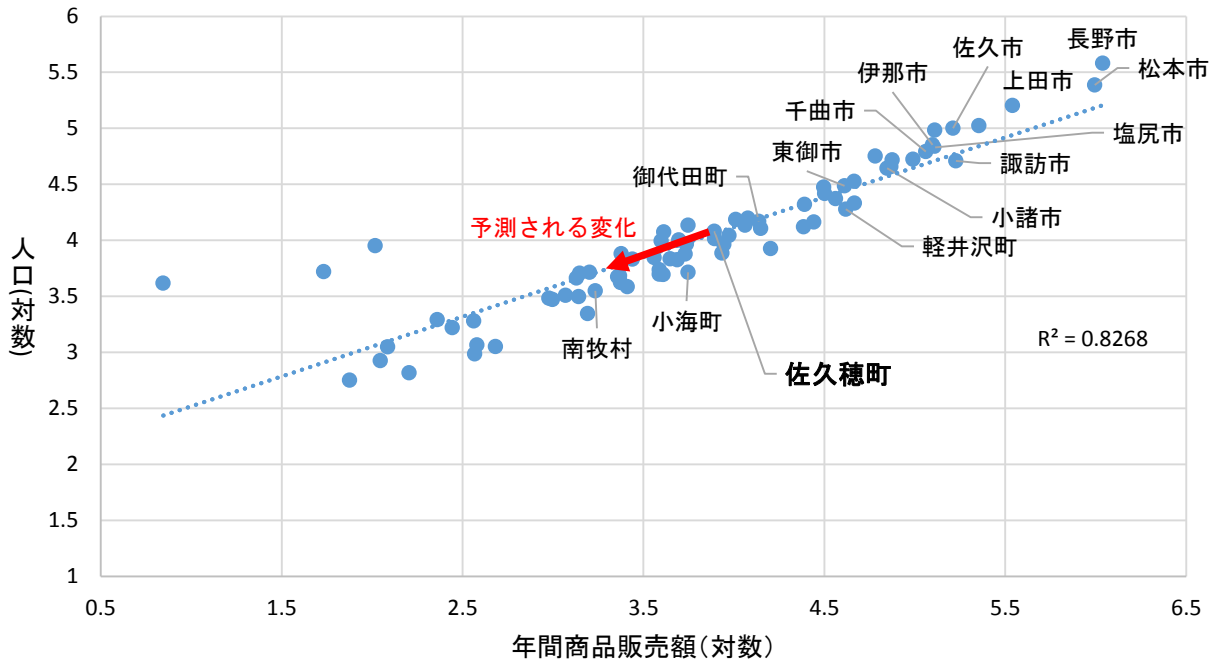
※2004年までは佐久町、八千穂村の合算値

国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』2013年3月をベースに再計算

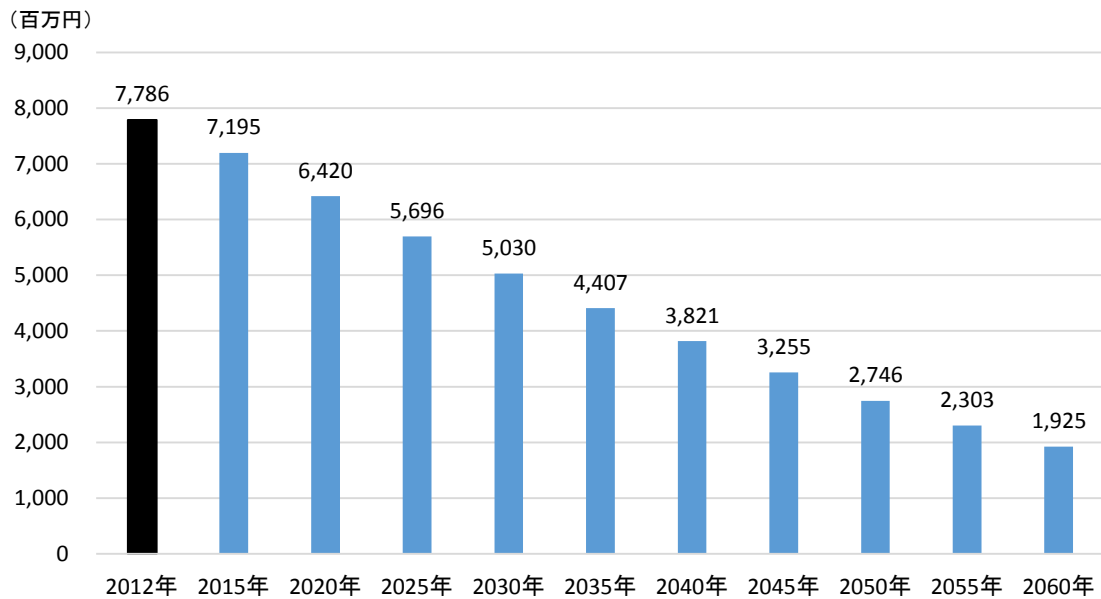
社人研推計によると、高齢化率は上昇を続け 2045年には46.5%に到達すると予想されます。

3. 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察

(1) 人口規模と年間商品販売額



国勢調査(2010年)、経済センサス(2012年)より算出



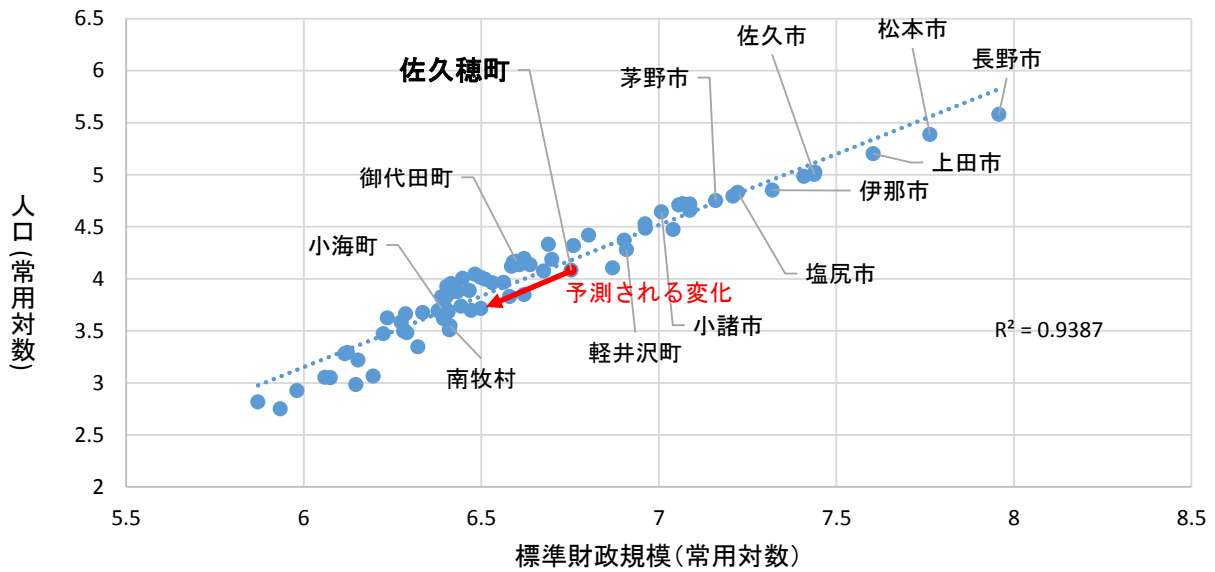
国勢調査(2010年)、経済センサス(2012年)より算出

人口規模と年間商品販売額の相関を長野県内の市町村データで分析しています。散布図から導出された回帰直線³⁾($R^2 = 0.8268$)より2060年までの年間商品販売額を推計しています。2012年では年間商品販売額が約78億円ですが、2045年には現在の41%ほどの約32億円にまで減少すると推計されます。

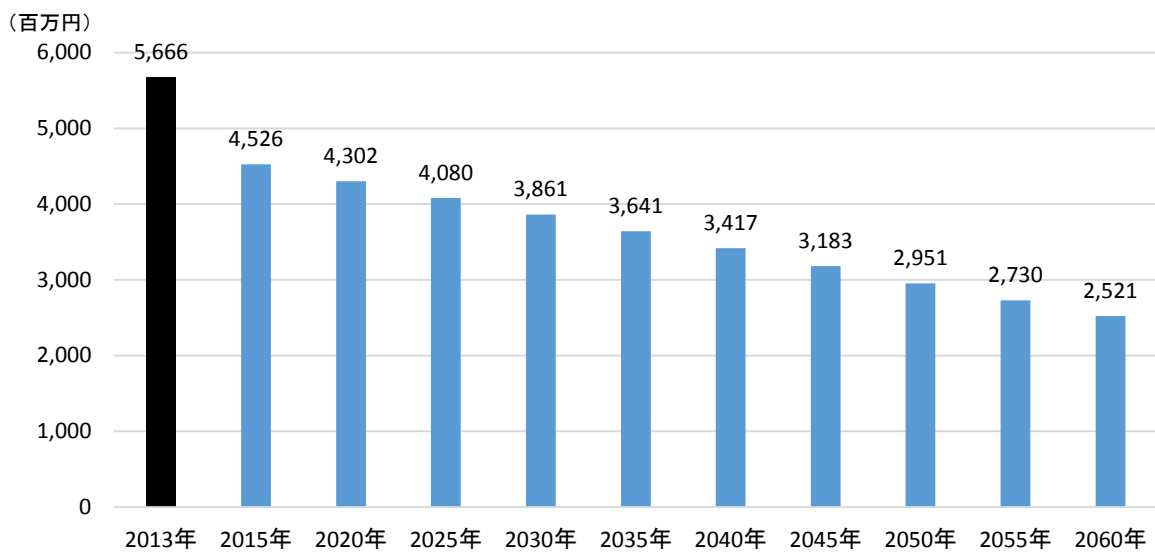
³⁾ 回帰直線

2つの変数を持つデータの、分布傾向を表す直線。将来的な値の予測に利用する。

(2) 人口規模と標準財政規模



国勢調査(2010年)、長野県『市町村財政状況』(2014年)より算出



国勢調査(2010年)、社人研推計(2015~2060年)、長野県『市町村財政状況』(2014年)より算出

人口規模と標準財政規模⁴の相関を長野県内の市町村データで分析しています。散布図から導出された回帰直線 ($R^2 = 0.9387$) より 2060年までの標準財政規模を推計しています。2013年では約57億円の規模ですが、2045年には現在の56%となる約32億円でまで減少すると推計されます。

⁴ 標準財政規模

地方公共団体が、標準的な状態にある時、通常収入が見込まれる一般財源の規模を示したもの。

4. 小括

(1) 人口について

- ・まちの総人口は過去 65 年間減少を続けています。このままのペースで人口減少が続くと、約半数の地区で 2045 年までに人口が半減してしまいます（2～4 ページ）。
→一方で、地勢的な条件が似通っていても、高齢化や人口減少のスピードが異なる場合があります。これらの差異から人口減少を緩和するためのヒントを学んでいくことが必要です。
- ・合計特殊出生率は 1.58（2008～2012 年）となっており、人口減少の一因となっています（5～7 ページ）。

→理想の子どもの平均人数 2.50 人、予定している子どもの平均人数 1.84 人には乖離^{かいり}があります。出産の希望が叶うよう町全体で取り組んでいく必要があります。

- ・進学等で町外に出た若年女性が戻ってこなくなっています（7～9 ページ）。
→「若年女性から選ばれるまち」を取り戻していく必要があります。

(2) 産業について

- ・第 1・2 次産業の高齢化が進み就業者数が減っています。（10～11 ページ）。
→一方で、20～30 代の新規就農者の存在は見逃せません。第 3 次産業は雇用の受け皿となっています。
- ・町内の産業は、小規模な事業所が多くなっています。大きな特徴がないため、他の自治体と比較すると、知名度が低い状況にあると考えられます。町内の就業は約 5 割であり、佐久市のベッドタウン化が進んでいます。町内の就業が多いのは「農業・林業」、「製造業」、「医療・福祉」、「建設業」となっています（12～15 ページ）。
→一方で、農業の生産品目が多様といった、佐久穂の良さもあります。町内の就業が多く、他の自治体との競争力があると考えられる産業を軸に、町のブランド力をあげていくことが求められます。

(3) 佐久穂町の強みについて

- ・佐久穂町の強みは自然・人と人とのつながり等を土台とした確かな暮らしです（16 ページ）。

(4) 人口の変化が地域の将来に与える影響

- ・今後も人口減少が進むと、町内の経済規模が小さくなり、民間サービスが維持できなくなったり、行政サービスが縮小されたりすると想定されます（17～19 ページ）。
→人口減少を抑え、人口推移を定常化の水準まで持ち込むために、町をあげて取り組んでいくことが重要です。

第3章 人口の将来展望

1. 目指すべき将来の方向

佐久穂町の人口はこれまで半世紀以上の間、減少を続けてきました。このまま状況が改善されなければ、将来的には地域経済の縮小、財政難による行政サービスの低下、家族や地域を始めとする「コミュニティ」の崩壊によって、さらに人口減少が加速する、という負の循環は避けられません。

大企業の立地や地域資源が活かしきれていない佐久穂町は知名度も低く、全国他市町村との地域間競争に勝ち抜く見込みはきわめてわずかです。しかし幸いなことに、佐久穂町には先人達が生活の中から築き上げてきた、各集落における活動や健康管理事業をはじめとする多様なコミュニティが今も息づいており、それがこの町の強みです。大都市にはない豊かな自然環境の中で、そのつながりを再度住民と町が力を合わせて磨き上げ、その魅力に自然に人が集まる、そんなまちづくりを目指します。

「コミュニティによる課題解決力の再生・強化」から 佐久穂町の創生を始めます。

すなわち、町民全員の力を結集しコミュニティのつながりを強化しながら、佐久穂町の暮らしを充実させていくことに重点を置いて施策を推進していきます。

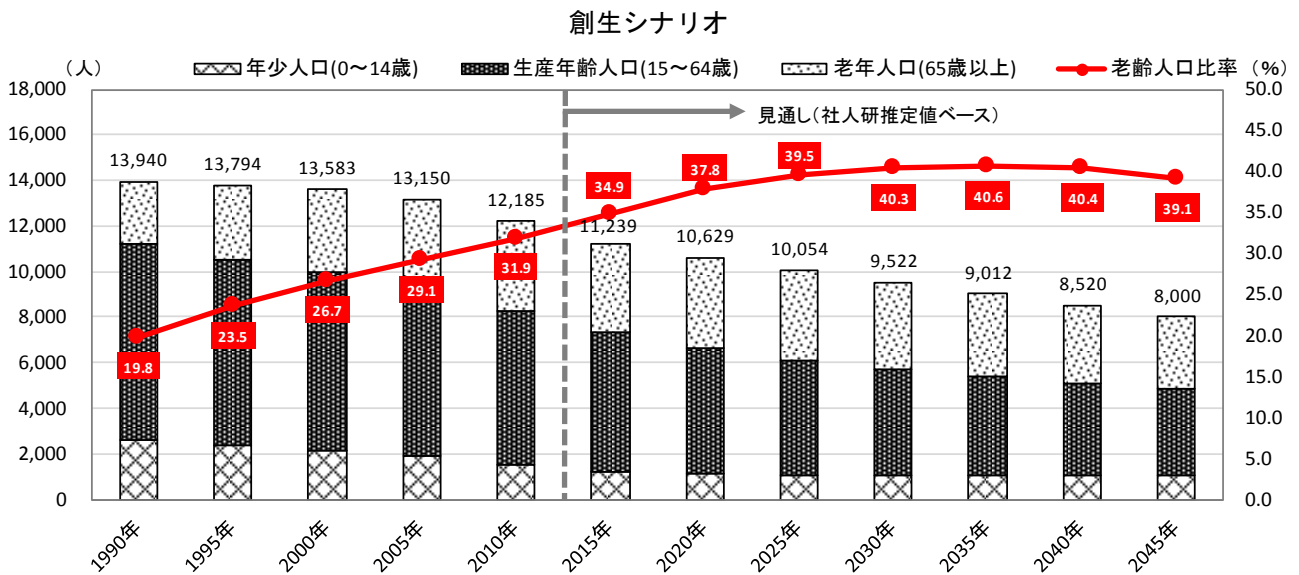
2. 人口の将来展望

(1) 全体の人口

2045年に小学校入学時1学年2クラス(70人)

を維持できる人口を目標とします。

人と人とのつながりを次世代につなげていくという観点から、子どもたちの人口を維持していくことが重要です。地域のコミュニティ、学びのコミュニティの活力を維持していくために、2045年まで1学年70人以上の児童を維持していくことを目標とし「創生シナリオ」と呼びます。



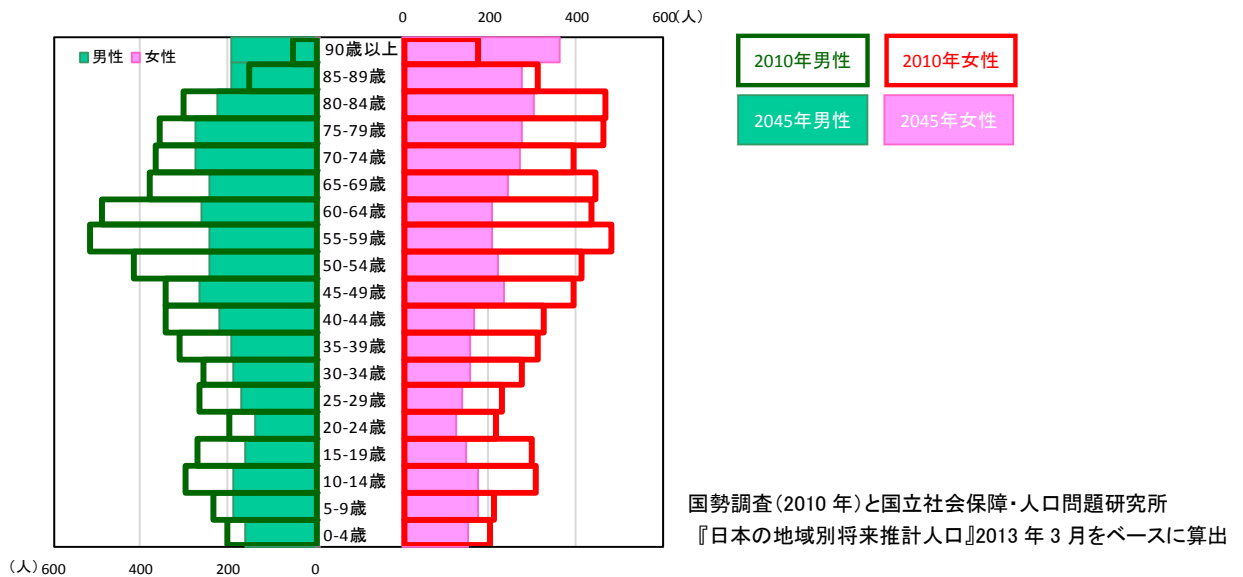
出典: 2010年まで長野県毎月人口異動調査(各年4月1日)

※2004年までは佐久町、八千穂村の合算値

国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』2013年3月をベースに再計算

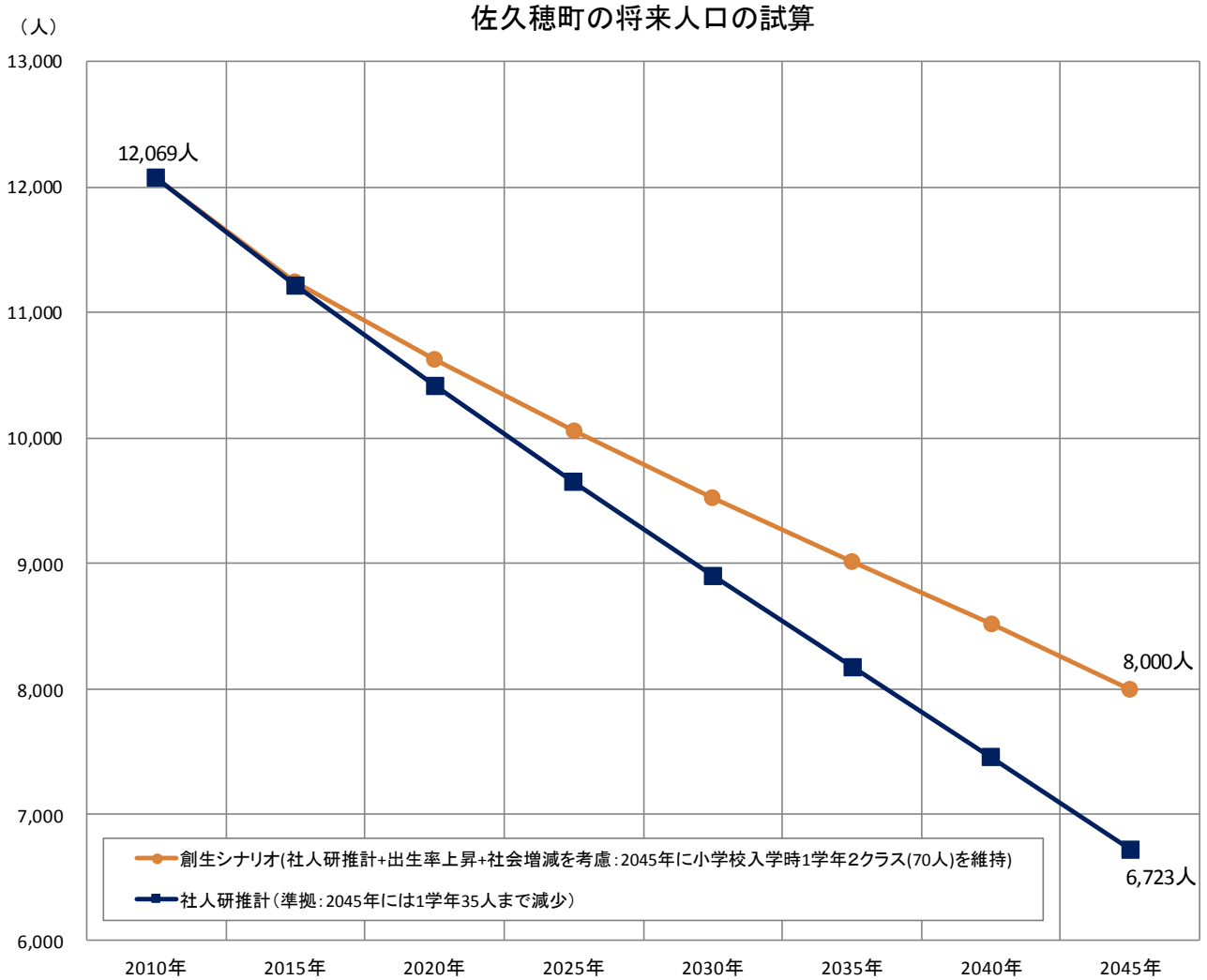
創生シナリオでは、高齢化率は2035年に40.6%となりピークを迎え、その後、2045年には39.1%まで回復します。

創生シナリオ



創生シナリオでは、子育て世代の転入を促進することによって、逆三角形型から長方形型の人口構造を目指します。

創生シナリオでは、施策誘導により、2045年に社人研推計より約1,300人多い人口規模を目指します。



※30年後の佐久穂町を想定し、2045年までに設定。

内閣府提供資料により推計

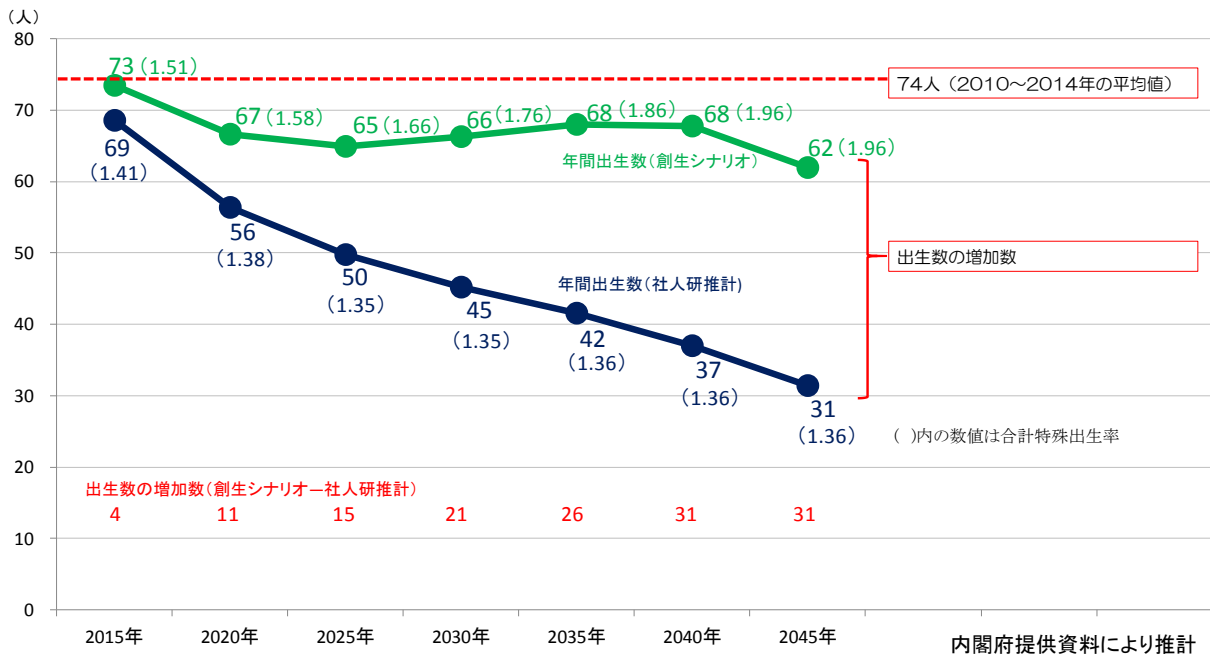
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
創生シナリオ	12,069	11,239	10,629	10,054	9,522	9,012	8,520	8,000
社人研推計に準拠	12,069	11,215	10,420	9,646	8,902	8,175	7,456	6,723

内容	2045年推計人口(人)	合計特殊出生率	転出-転入 2015~2045年の平均 (2015~2020年の平均)
【創生シナリオ】 (社人研推計+出生率上昇+社会増減を考慮) ☆2045年に小学校入学時 1学年2クラス(70人)を維持	8,000	【町民希望出生率まで上昇】 2040年から1.96 (それまで一定割合で上昇) (※資料編に計算方法を記載)	約-6人/年 (約-9人/年)
【社人研推計に準拠】 ☆2045年には1学年35人まで減少	6,723	2015年から1.41、2020年から1.38 2025年から1.35、2035年から1.36	約-25人/年 (約-36人/年)

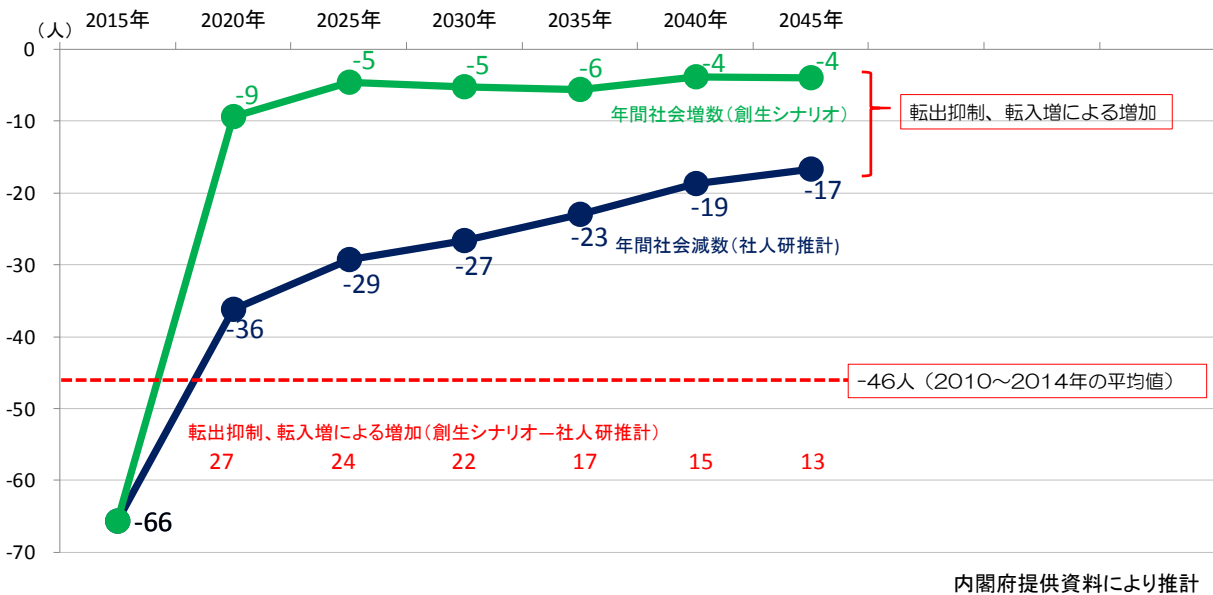
※創生シナリオの2020年までの出生数目標は約67名/年

※社会増減は20~30代を中心とし、大人2人に対して0~5歳の子ども1人が転入すると仮定

年間出生数の目標水準

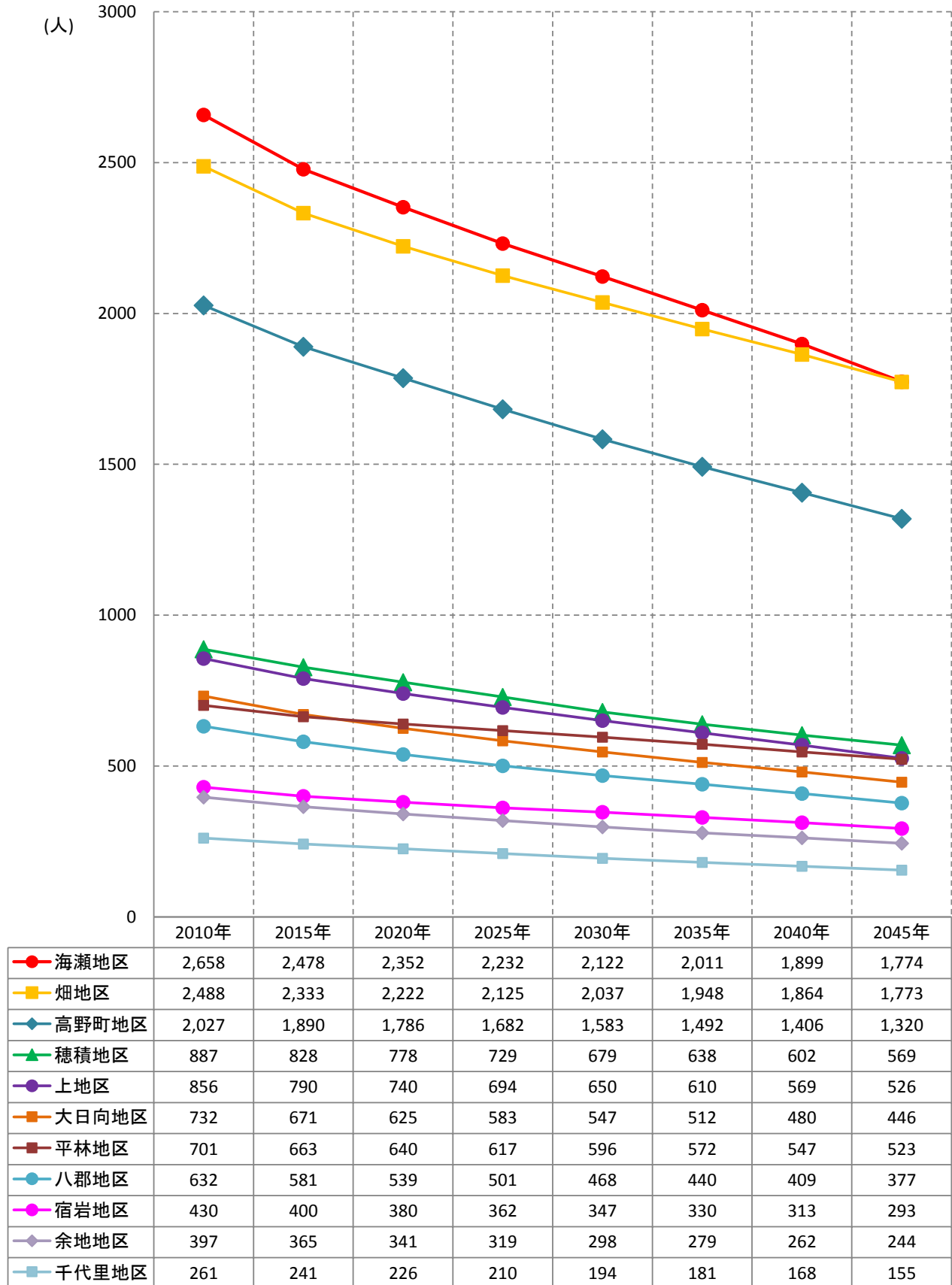


年間社会増減数の目標水準



(2) 地区別の人口

2045年まで、1学年2クラス(70人)を維持していくための、各地区の人口の目標を以下に示します。



国勢調査(2010年)と国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』2013年3月をベースに算出

資料

1. 佐久穂町人口ビジョン・佐久穂町コミュニティ創生戦略策定のために独自に行った調査の概要

(1) 町内在住若者対象アンケート調査

(ア) 調査の目的

本調査は、「佐久穂町コミュニティ創生戦略」策定に向けて、町民の「仕事」、「結婚」、「出産や子育て」、「移住・定住」に関する意識や課題を把握するために実施しました。

(イ) 調査の実施方法

- ◆調査対象者 : 佐久穂町に住所のある 18～40 歳（平成 27 年 5 月 31 日現在）
- ◆調査方法 : 郵送による配布
- ◆実施期間 : 平成 27 年 5 月 20 日～6 月 3 日

(ウ) アンケート用紙回収結果

- ◆配布数 : 995 件
- ◆回収数 : 324 件（回収率 32.56%）

(2) 転出者アンケート調査

(ア) 調査の目的

本調査は、「佐久穂町コミュニティ創生戦略」策定に向けて、町内から転出された方の「転出理由」、「就労・就学状況」、「再移住意向」に関する状況や意識を把握するために実施しました。

(イ) 調査の目的

- ◆調査対象者 : 佐久穂町から転出された 18 歳～39 歳の方
- ◆調査方法 : インターネット調査
- ◆実施期間 : 平成 27 年 5 月 20 日～6 月 17 日

(ウ) アンケート用紙回収結果

- ◆回収数 : 51 件

(3) ヒアリング調査

(ア) 調査の目的

本調査は、町の産業を担っている団体に産業振興の方向性を伺うことによって、町の戦略に加えるべき視点を収集することを目的に実施しました。

(イ) 調査の実施方法

下記の日程で各団体を代表する方にヒアリングを行いました。

平成 27 年 7 月 6 日

時間	団体
10:00～11:30	佐久穂町商工会
13:30～15:00	J A 佐久浅間
15:30～17:00	南佐久北部森林組合

(4) グループインタビュー調査

(ア) 調査の目的

本調査は、町で子育てする魅力や、定住につながる「結婚・出産・子育て」の希望を実現するために今後重点的に取り組むべき施策につながる意見を収集することを目的に実施しました。

(イ) 調査の実施方法

下記の日程で対象の方にグループインタビューを行いました。

平成 27 年 7 月 10 日 佐久穂町茂来館

時間	対象
13:00~14:20	佐久穂町で子育てをするお母さん (20代~40代) 10名
19:00~20:45	佐久穂町在住の未婚女性 10名

(5) 佐久穂町版国民希望出生率について

(ア) 算出の方法

国が出生率を 2030 年(平成 42 年)に 1.8 と推計した根拠を佐久穂町に当てはめて試算しました。数値については、佐久穂町「まち・ひと・しごと創生」に関する意識調査(住民アンケート)等の結果を用いていますが、国の算出基準となっている調査と正確に一致していないため、注意が必要です。

【佐久穂町版_国民希望出生率】

$$\begin{aligned}
 &= (\text{有配偶者割合} \times \text{夫婦の予定子ども数} + \text{独身者割合} \times \text{独身者のうち結婚を希望する者の割合} \times \text{独身者の希望子ども数}) \times \text{離死別等の影響} \\
 &= (30.4\% \times 2.09\text{人} + 69.6\% \times 87.6\% \times 2.39\text{人}) \times 0.938 \\
 &= \underline{\underline{1.96}}
 \end{aligned}$$

(イ) 基礎数値等

- ・有配偶者割合：30.4% (女性)
 …総務省統計局「国勢調査」(平成22年)における18~34歳の有配偶者の割合
- ・夫婦の予定子ども数：2.09人
 …住民アンケート回答者(18-40歳)のうち、配偶者がいる女性の平均予定子ども数
- ・独身者割合：69.6%
 …1 - 有配偶者割合
- ・独身者のうち結婚を希望する者の割合：87.6%
 …住民アンケートの回答者から18-34歳、配偶者がいない女性のうち、「いずれ結婚したい(する)」と回答した者の割合
- ・独身者の希望子ども数：2.39人 (女性)
 …住民アンケートの回答者から18-34歳、配偶者がいない女性のうち、「いずれ結婚したい(する)」と回答した者の理想の子ども数の平均
- ・離死別等の影響：0.938
 …国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」における出生中位の仮定に用いられた離死別等の影響